

2014年3月 開場は、上映開始の15分前です
★・・・ゲスト来場予定

21日(金・祝)・13:30～★

『おだやかな日常』102分



監督・脚本：
内田伸輝
プロデューサー：
杉野希紀
出演：
杉野希紀
篠原友希子
山本剛史
渡辺香実
小柳友
渡辺真紀子
山田真歩

東京近郊に住むサエコは東日本大震災直後に夫から離婚話を切り出され、一人で幼い娘を育てることに。その隣人ユカコは放射能への危機意識を募らせ、夫との間に温度差が生まれる。周囲から孤立してゆくふたりの日常が、思わぬ形で交錯する。

16:20～★

『桐島、部活やめるってよ』103分

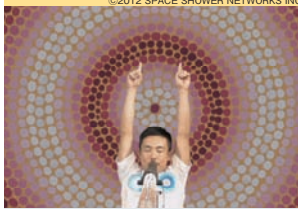


監督・脚本：
吉田大八
出演：
神木隆之介
橋本愛
東出昌大
大後寿々花
清水くるみ
山本美月
松岡茉優

共学高校で人気抜群の男子・桐島がバレーボール部を辞めるといふ噂が駆け巡る。校内ヒエラルキー最下部の映画部員たちがゾンビ映画の撮影に熱中する一方、桐島を中心に点在する男子女子の心はさまざまに揺れ動き、人間関係の微細な「真実」が浮き彫りにされていく。

19:10～★

『フラッシュバックメモリーズ 3D』(2D上映) 72分



監督：
松江哲明
出演：
GOMA &
The Jungle
Rhythm
Section

アポリジニの伝統的楽器ディジュリドゥ奏者GOMAは、活動10年目の2009年11月、追突事故により記憶の一部が消えたり新しいことが覚えづらくなる高次脳機能障害に。復活のライブ映像とともに事故以前の姿や事故後の日々が重なりあう。

22日(土)・11:00～★

『さよなら溪谷』116分



監督・脚本：
大森立嗣
出演：
真木よう子
大西信満
鈴木杏
井浦新
新井浩文
鶴田真由
大森南朋

緑豊かな溪谷近くの市営住宅にひっそり暮らす夫婦。隣室で起きた幼児殺害事件のため押し寄せた報道陣にも、俊介とかなこは距離を置いていた。だが、俊介が警察に取り調べられることになり、うかつのあがらない週刊誌記者が夫婦の過去を探りはじめる。

14:15～★

『その夜の侍』119分



監督・脚本：
赤堀雅秋
出演：
堺雅人
山田孝之
綾野剛
谷村美月
高橋勉
山田キヌヲ
坂井真紀
安藤サクラ
田口トモロヲ
新井浩文

小さな鉄工所を営む中村は、5年前のひき逃げ事件で最愛の妻を亡くして以来、失意の底から立ち直れずにいた。一方、ひき逃げ犯の木島は出所し、相変わらず傍若無人に野獣のように生きている。中村は、復讐に向け、ひそかに着実に動き出していた。

17:30～★

『横道世之介』160分



監督・脚本：
沖田修一
出演：
高良健吾
吉高由里子
池松壮亮
伊藤歩
綾野剛
朝倉あき
黒川芽衣

1987年、大学進学のため長崎から上京した世之介は、生来の人の好きから多くの友人に恵まれ、社長令嬢との初々しい恋を育てていく。サークルやアルバイトなどで様々な人と出会う、きらきら輝く青春の日々。18年後、彼の笑顔は人々の心をも今も温かく照らすのだった。

23日(日)・11:00～★

『箱入り息子の恋』117分



監督・脚本：
市井昌秀
出演：
星野源
夏帆
平泉成
森山良子
大杉漣
黒木瞳
穂のか

市役所勤務の健太郎は35歳で実家住まいの身。自宅と職場を往復するだけの、内気で生真面目な息子を心配した両親が代理見合いで出会った奈穂子に、健太郎は恋をする。だが、目の見えない娘を愛する奈穂子の父は、健太郎の学歴も職歴も気にくわず、大反対する。

14:15～★

『凶悪』128分



監督・脚本：
白石和彌
出演：
山田孝之
ビエール瀧
池脇千鶴
リリー・フランキー
白川和子
吉村実子
小林且弥

スクープ雑誌の編集部記者・藤井の元に、獄中の死刑囚・須藤から手紙が届く。誰にも話していない3つの殺人事件と、「先生」と呼ばれる首謀者のことを記事にしてほしいと懇願され、須藤の告白を基に取材を開始。やがて藤井は仕事の枠を超えてこの事件にのめり込んでいく。

17:30～★

『舟を編む』133分



監督：
石井裕也
出演：
松田龍平
宮崎あおい
オダギリジョー
黒木華
渡辺美佐子
池脇千鶴
鶴見辰吾

言葉に対する並外れた感性を見込まれ、辞書編集部に配属された新人編集部員の馬場光也。今を生きる人たちに向けた辞書『大渡海』完成を目指し、個性的な同僚らと共に言葉の海に挑む。仕事を通して様々な人、様々な言葉と出会い、別れ、影響を受け、馬場の世界が拡がっていく。

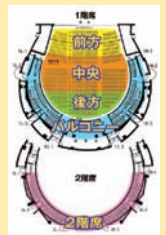
チケット発売日：2013年12月22日(日)

【料金】全席指定
●1回券(日時指定)：[Pコード:552-300]800円
●1日券(日にち指定・限定160席・前売りのみ)：[Pコード:552-301]2,000円

【お求め先】
ミュージックチケットカウンター 04-2998-7777 (電話 10:00~18:00) (窓口 10:00~19:00)
チケットぴあ 0570-02-9999
ローソンチケット 0570-000-407 (10:00~20:00)

【会場】
所沢市民文化センター ミュース マーキーホール
〒359-0042 所沢市並木1-9-1

【主催・お問い合わせ先】
公益財団法人 所沢市文化振興事業団
04-2998-6500 〒359-0042 所沢市並木1-9-1
http://www.muse-tokorozawa.or.jp

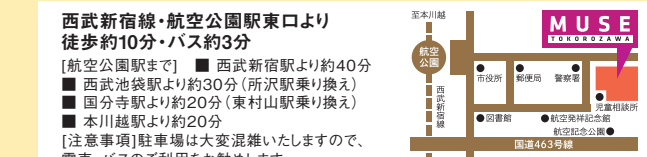


※ 区域「前方」「中央」「後方」「バルコニー」「2階席」のいずれかを選んでご購入いただけます。
※ 1日券は「中央」「後方」のみとなります。
※ ミュースチケットカウンターでご購入の場合、直接座席を指定することができます。
※ 開場は各上映開始時刻の15分前からとなります。
※ 上映後は映写機チェックのため、いったんロビーにご退場いただきます。
※ 前売券は開演前日まで販売しております。
※ チケットぴあでの前売券予約は開催4日前までとなります。
※ 未就学児の入場はご遠慮いただいております。

● 全日、ゲスト来場者のトーク後に、ロビーでのサイン会を予定しています。
● やむを得ない事情により、ゲスト・プログラム等変更になる場合がございます。ご了承ください。
● 上映開始後は場内が暗くなるため、お手持ちのチケットの座席にご案内できませんので、上映開始時刻に遅れないようご注意ください。

【協力】株式会社キノフィルムズ、株式会社ショウゲート、松竹株式会社、株式会社スポットテッドプロダクションズ、日活株式会社、株式会社ファントム・フィルム、株式会社 和エンタテインメント

【企画制作】ぴあ株式会社 PFF事務局



会場：所沢市民文化センター ミュース マーキーホール

2014年3月 第14回 ミュースシネマ・セレクション

★・・・ゲスト来場予定

監督・脚本 内田伸輝★
『おだやかな日常』
監督・脚本 吉田大八★
『桐島、部活やめるってよ』
監督 松江哲明★
『フラッシュバックメモリーズ 3D』

監督・脚本 大森立嗣★ 『さよなら溪谷』
監督・脚本 赤堀雅秋★ 『その夜の侍』
監督・脚本 沖田修一★ 『横道世之介』

監督・脚本 市井昌秀★ 『箱入り息子の恋』
監督・脚本 白石和彌★ 『凶悪』
監督 石井裕也 『舟を編む』

監督、俳優など各回のゲストは確定次第ミュージックHPで発表します。
http://www.muse-tokorozawa.or.jp
※ やむを得ない事情により、ゲスト、プログラム等変更になる場合がございます。ご了承ください。

熱い想いに満ちた新しい監督たちが続々と登場しています。日本映画の豊かさを再確認する3日間が始まります!

★...ゲスト来場予定

21日(金・祝) 13:30 『おだやかな日常』(102分)



東日本大震災発生直後の東京。情報が錯綜し、原発事故の実情が明らかになるにつれ、放射能への恐怖が始まる。愛娘の安全のためにとる行動を“ヒステリー”と非難されるサエコ。東京を離れることを提案して「ノイローゼじゃない?」と評されるユカコ。“私たち”と同じ行動をとらない者に対して“私たち”は容赦しない。インディーズ映画を撮り続けてきた内田伸輝監督が、非属の視点で“私たち”を見つめる秀逸かつ冷徹な日本人論。

災害地域からの難民が差別されるように、サエコとユカコも感情的に追い詰められていく。『ふゆの獣』(11年度タイガーコンペティション)と同じく、この現実的な低予算映画において内田は役者陣に全幅の信頼を置いている。(ヘルチャン・ズィルホフ/ロッテルダム国際映画祭プログラマー)

●ロッテルダム国際映画祭/釜山国際映画祭/東京フィルメックス ほか



内田伸輝 (うちだ・のぶてる) ★
1972年埼玉県生まれ。ドキュメンタリー『えてがみ』でPFFアワード2003審査員特別賞、香港国際映画祭スペシャルメンション授与。『かざあな』でPFFアワード2008審査員特別賞受賞。劇場デビュー作『ふゆの獣』(10年)で東京フィルメックス最優秀作品賞受賞。

22日(土) 11:00 『さよなら溪谷』(116分)



大森立嗣監督は衝撃的な出来事や描写の際に演出を抑えず、観客は回想シーンを通してゆっくりとその衝撃から立ち直っていく。作品全体から観客が何をつかみとるにせよ、因果関係について冷静なまでに率直に描き出した作品だ。(グロリア・ダニエルズ・モス/イースタンキックス・コム)

●モスクワ国際映画祭審査員特別賞受賞/バンクーバー国際映画祭 ほか

『さよなら溪谷』(116分)

世界に2人きりしかいないように寄り添う夫婦、俊介とかなこの、15年前の衝撃的な出会い。激しい憎しみから小さな灯のように生まれた愛と振り返り、7年ぶりの主演作になる真木よう子が静かに深く熟演。これまで世間からはみ出した若者、特に青年の葛藤を描いてきた大森立嗣監督にとっては初めて女性が主人公の作品になるが、深く傷ついた女性の、言葉で説明しきれない心理をじっくりと炙り出し、緊張感に満ちた映画に仕上げた。



大森立嗣 (おおもり・たつし) ★
1970年東京生まれ。2005年『ゲルマニウムの夜』で映画監督デビュー。2作目の『ケンタとジュンとカヨちゃんの国』(10年)で日本映画監督協会新人賞を受賞。以後、『まほろ駅前多田便利軒』(11年)、『ぼっちゃん』(12年)などを手がけた。

21日(金・祝) 16:20 『桐島、部活やめるってよ』(103分)



金曜から火曜までの5日間で「主役」と「脇役」を鮮やかに転換させながら、他者の痛みを思いやる余裕のない思春期の残酷さや尊大さを表出。吉田大八監督は、これまで一貫して人の内部にうごめくドロドロした闇をシニカルかつユーモラスに暴きながら、登場人物を愛すべき存在として描いてきた。本作では、学校という小宇宙における存在感の軽重と精神的成長度にはなんら相関関係のないことを、スリルに満ちた青春群像で活写した。

キャスト全員のアンサンブルは申し分なく見事で、吉田監督のさりげない演出が随所に生きている。吉田監督は、ユーモアという隠し味と不穏な空気を充満させる卓越した能力において日本映画界に確固たる地位を築いた。(デレク・イレイ/フィルム・ビジネス・アジア)

●フロンティア国際ファンタスティック映画祭NETPAC賞/香港国際映画祭/日本アカデミー賞最優秀作品賞・最優秀監督賞・優秀脚本賞・最優秀編集賞・新人俳優賞受賞 ほか



吉田大八 (よしだ・だいはち) ★
1963年鹿児島県生まれ。CMディレクターとして活躍後、2007年に『肘抜けども、悲しみの愛を見せる』で映画監督デビュー。その後、『クヒオ大佐』(09年)、『パーマメント野ばら』(10年)を手がけた。

22日(土) 14:15 『その夜の侍』(119分)



運命の日が近づくにつれてサスペンスが増していくが、赤堀監督は独特の抑制力をもって心理学的洞察を深める。彼はこの監督デビュー作で、たいへん人間的な、心の闇の衝動と激情の核心部分に切り込んでいるのだ。(トニー・レイノズ/ブリティッシュ・フィルム・インスティテュート)

●モントリオール世界映画祭/BFIロンドン映画祭/ヨコハマ映画祭新人監督賞/2012年新藤兼人賞受賞 ほか

『その夜の侍』(119分)

分厚いレンズのメガネをかけ、薄汚れた作業着姿の冴えない中年男性・中村になりきった堺雅人と、倫理観が完全に欠如した怪物のような木島を演じる山田孝之。それぞれが表出させていく狂気は、ありふれた日常生活とともに描かれていくだけに、緊迫感がいや増す。自らの劇団で作・演出・出演を担当して高い評価を受けてきた赤堀雅秋は、この初映画監督作品でも孤独な人間の機微を仔細に描き出すことに成功。



赤堀雅秋 (あかほり・まさあき) ★
1971年千葉県生まれ。96年に劇団THE SHAMPOO HATを旗揚げし、作・演出・俳優の3役をこなす。俳優として映画『モテキ』(11年)などに出演。『その夜の侍』は07年に自ら主演を務めた舞台作品で、初映画監督作品である。

21日(金・祝) 19:10 『フラッシュバックメモリーズ 3D』(72分)



これまでも自身が尊敬してやまないアーティストのドキュメンタリー映画を、毎回独自の手法で作り上げてきた松江監督。本作では、事故により、電車の乗り方も忘れ、ときに感情の抑制もきかなくなったミュージシャンGOMAの復活への日々をとらえる。妻と幼い娘の存在あってこそその家族愛の物語であると同時に、GOMAの演奏の、宇宙に広がっていくごとく響き続ける音色、そして研ぎ澄まされたような表情が感動的だ。

あらゆる手法は出尽くしたと思われた今、松江哲明監督はこの作品でドキュメンタリー映画の斬新なフォーマットを示した。伝記映画とコンサート・フィルムと刺激的なライブの疑似体験がミックスされた。真新しい映画体験がここにある。(ミーガン・レーマン/ハリウッド・レポーター)

●バンクーバー国際映画祭/サンセバスチャン国際映画祭/チョンジュ国際映画祭NETPAC賞受賞 ほか



松江哲明 (まつえ・てつあき) ★
1977年東京都生まれ。『あんにょんキムチ』(99年)で山形国際ドキュメンタリー映画祭アジア千波万波特別賞受賞。その後、女優・林由美香を追う『あんにょん由美香』(09年)、シンガーソングライター前野健太に密着し東京国際映画祭ある視点部門作品賞を受賞した『ライブテープ』(09年)などを発表。

22日(土) 17:30 『横道世之介』(160分)



この160分間におよぶ日本映画に観客をかかも引きこみ楽しませてくれるのは、幸せな記憶と悲劇的な出来事の見事な融合と、ほとんど完璧に近いキャストの力だ。高良健吾はおそらく現在の日本でもっとも首尾一貫した演技力を見せる俳優のひとりであり、ドラマチックな役であろうとコミカルな役であろうと、さまざまな人物を演じ分けられる。(ジェド・メティナ/サイコ・ドラマ)

●香港国際映画祭/ウーディネ・ファースト映画祭/TAMA映画祭最優秀作品賞・最優秀女優賞・最優秀新進俳優賞 ほか

『横道世之介』(160分)

南極観測隊8人の男たちの日常をユーモラスに描いた『南極料理人』で鮮烈な商業映画デビューを飾った沖田監督。吉田修一原作の『横道世之介』では、周囲の者みんなを優しく照らす青年を軸に、毎日が冒険のような青春の日々を明るく描き出した。バブル時代の大学生活ながら、主人公は都会ズレせず、人懐っこく、偏見とも卑屈とも無縁な純朴な青年。演じる高良健吾をはじめ、豪華キャスト陣の見応えある演技が楽しい。



沖田修一 (おきた・しゅういち) ★
1977年埼玉県生まれ。『すばらしきせかい』(06年)で長編監督デビュー。商業映画デビュー作『南極料理人』(09年)で第29回藤本賞新人賞などを受賞。続く『キツキツと雨』(12年)では東京国際映画祭審査員特別賞などを受賞。

23日(日) 11:00 『箱入り息子の恋』(117分)



長編第1作『単(はやぶさ)』では貧乏夫婦を、「無防備」では妊婦と不妊の女性を主人公に、両作ともに女性のたくましさや謙虚な男性の弱さが浮き彫りになるところが共通していた。独創的なストーリー展開に冴えを見せる市井監督にとって初の商業映画作品になる本作では、愛すべき童貞男の一途な恋物語を描く。映画初主演になる星野源の好演はもとより、森山良子と黒木瞳が演じる母親たちのしなやかな強さが印象的だ。

社会不適合の男性を描く日本映画の監督のなかでも、市井監督は、おとなになりたけどうしたらいいかわからない健太郎のジレンマを、茶化すことなく真面目に、思いやりをこめて見つめる。(マーク・シリング/ジャパン・タイムズ)

●モントリオール世界映画祭/チョンジュ国際映画祭/TAMA映画祭最優秀新進俳優賞受賞 ほか



市井昌秀 (いちい・まさひで) ★
1976年富山県生まれ。初の長編監督作品『単(はやぶさ)』でPFFアワード2006の準グランプリほか受賞。第2作『無防備』でPFFアワード2008のグランプリほか受賞。また釜山国際映画祭のグランプリを受賞した。本作が商業デビュー作。

23日(日) 14:15 『凶悪』(128分)



雑誌「新潮45」の記者が闇に葬られかけていた殺人事件を記事にして告発、書籍化されたベストセラー・ノンフィクションを映画化。事件の真相を暴きだそうとする主人公のジャーナリスト役に山田孝之、告発者の死刑囚役にピエール瀧、告発された殺人事件の首謀者と目される“先生”役にリリー・フランキー、三者三様の人間性を男の色気も醸して体現。物語が進むにつれ“父親”ないし“夫”不在で成り立ってきた戦後以降の日本社会が浮かび上がる。

『凶悪』で、白石和彌監督はジェームズ・エルロイの域に迫るほどの墮落した人間性の暗闇を我がものとした。ミステリーとして際立った苦味を縫い合わせてゆき、空虚かつ恐ろしい感情がエンドクレジットの後まで残る。(ニコラス・ブローマン/EL Magazine)

●モントリオール世界映画祭/釜山国際映画祭/2013年新藤兼人賞受賞 ほか



白石和彌 (しらいし・かずや) ★
1974年北海道生まれ。若松孝二監督『明日なき街角』(97年)、『完全なる飼育 赤い殺意』(04年)、『17歳の風景 少年は何を見たのか』(05年)などに助監督として参加。初の長編映画『ロストパラダイス・イン・トーキョー』(10年)を経て本作を手がける。

23日(日) 17:30 『舟を編む』(133分)



80年代生まれの若手世代の雄、石井裕也監督が2012年度「本屋大賞」1位に輝いた三浦しん原作の同名小説を映画化。「言葉の海を渡る舟」と辞書編纂に携わる人々の15年にも及ぶ格闘の日々を、石井監督の持ち味であるコメディ感覚を活かしつつ正攻法の演出で描写。三浦作品への出演は二度目となる松田龍平が、飄々として真面目な主人公を妙演。朗らかな物語の中に“働く意味”と“仕事に対する姿勢”という確かな主題が潜んでいる。

仕事に真剣に取り組むという、どこにでもあるストーリーが丁寧に美しく、そして魅力的に描かれていて元気づけられる。情熱や夢を追うことに必ずしも理由は必要なく、“なぜ”よりも“どうやって”夢を追うかの方が大事なのだ。(アダム・ウォン/映画監督)

●米アカデミー賞外国語映画賞部門日本代表作品/香港国際映画祭/BFIロンドン映画祭 ほか



石井裕也 (いしい・ゆうや)
1983年埼玉県生まれ。『剃き出しにっぼん』(05年)でPFFアワード2007グランプリ&音楽賞を受賞。08年、アジア・フィルム・アワード第1回「エドワード・ヤン記念」アジア新人監督大賞を受賞。『川の底からこんにちは』(10年)でブルーボン賞監督賞を歴代最年少で受賞。